

第56回神奈川建築コンクール 一般建築物部門 審査総評 審査委員 大原一興

東日本大震災の起きた昨年は募集を行わなかったため、今年度は対象年度が3年分となり、応募件数も例年より多く65件となった。まずは、選考の経緯について記しておく、まず書類審査による第1次選考の結果、応募作品の資格を確認し、各審査委員の評価点の合計点の上位の作品から検討し、合議の上、現地審査の対象となる建築作品を絞り、施設種別や規模が実に多様な17件が選ばれた。この対象となった応募者に訪問日程等調整を進めていく段階で、所有者等の事情で辞退された施設が1件あり、結果的に16件が現地審査の対象となった。現地審査は、厳しい暑さの中、3日間を最大限有効に使って行程を組み、実施した。いずれも、その暑さの中で、建築環境を良好に保つための「夏を旨とする」自然との共存が、体感的に問われる審査となった。視察時には、現地での多岐にわたる質疑などから、審査にあたっての論点が浮き彫りにされた。さらに現地視察後の第2次選考では、現地審査での印象や評価について活発に意見交換された後、最終的な選考は投票により、各人の評価点数を合計した数値を参考にして授賞作を選んだ。この結果、最優秀賞1件、優秀賞9件、そしてアピール賞2件となった。審査委員会での意見としては、今回は個性的で優れた建築作品や力作が多く、できるだけ多く表彰したいとの意見をもつ審査員が少なくなかった。規程を守り、限られた数の表彰となったが、とくに現地審査の対象はいずれの作も見応えのある優れた作品であったとの印象が強い。さて、以下は、選ばれた作品全体の印象と、各賞の該当作品の紹介をしたい。まず、全体の印象だが、単体・単独の建築というよりも、他の建物や自然環境と連続する建築、敷地対応力や周囲景観との調和・一体感、といった点が重要なポイントとなり、それらの優れた建築作品が多く見られたことが印象的であった。最優秀賞となった「桐蔭横浜大学 大学中央棟」は、堅固な存在感と大胆な空隙を併せ持つ、堂々とした建築である。キャンパスの中央部に大きな箱形のマッシブな存在を主張しつつも、動線の結節点として存在しているため学生や職員の流れが建物の中を貫通し、また周辺の芝生に一体化するオープンなホールなど、周囲との関係性から設けられた間隙空間が見事に合体している。また、そのオープンな大空間を支える構造や環境配慮の様々な技術が豊かに組み込まれ、建築物に内包された多様なインフラストラクチャーが緻密かつ重層的に構成されている。つづいて優秀賞の「都筑が丘第二自治会館」は、決して大きな建築ではないが、施主の自治会の要望を丹念に聞き、周囲との関係や材料の慎重な選定など丁寧な設計を貫徹している密度の高い建築である。「東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館映画保存棟Ⅱ」は、低温で恒常的な環境を保持するという要求された特殊条件を、技術的に最善の方法で解決しデザインしていこう、という真摯な姿勢が、説得力のある建築に実現している。「宗教法人海蔵寺一玄能庵一」は、極めて慎重に幾度となく吟味

された結果として寸法や配置が決定されており、見事に庭の風景の一部となっている。建物が主張しすぎず、しかし欠かせない存在となっており、調和という概念で語るにふさわしい建築として成功している。「茅ヶ崎市立汐見台小学校」は、中庭をはさむ二棟ののびのびとした構成で、オープンスペースの使い方については教員との協議により多様な配慮がなされており、魅力的な建築物として統合させている。「横浜三井ビルディング」は、企画、規模、技術にすべてにおいて他を圧倒する存在である。機能的な箱や設備・施工の誇示に終始せず、意匠的にも全体のデザインや細部まで力を尽くし、スキのない総合デザインを実現している。「第一生命新大井事業所」は、町と共にあるひとつの企業の、渾身の象徴的プロジェクトとして、建築物としての規模もともかく、地域にとって極めて意義のある社会的投げかけとして評価できる。建築としても、環境共生技術や地域との関係など、無数の試みが凝縮されている。

「本郷台キリスト教会チャーチスクール・保育園」は、コンセプトが明快で開放的な空間構成による若々しい建築である。樹木と共に敷地に苗木として植えられたような建築が実現している。この空間は、子供たちがのびのびと生活する場として経時的に成長しつづける可能性を表明しているようである。「上星川教会」は、信者たちの思いを受け止め、困難な敷地条件を知恵と熱意で克服し、敷地対応への努力や教会としての内部空間の豊かさなど、最終的に手作的にまとめあげた時に建築空間としての力を感じさせる作品となっている。「日本映画大学 白山キャンパス・映画撮影スタジオ」は、旧小学校校舎の転用という条件をうまく活用し、教室そのものの活用など工夫に満ちた建築物となっており、特殊な存在でありながら地域利用ニーズにも対応している点で成功している。今回のアピール賞として、まずは「聖ステパノ学園中学校教室棟「森の中の教室」」で、不利な条件、特殊な条件を乗り越えて森と一体化する「環境」配慮のアピールが評価された。「横浜商科大学高等学校体育館」では、おなじく「環境」配慮が評価されたが、体育館という大空間建築物において、スキマのデザインという手法が成功をおさめている。